

# 第1号議案 2008年度事業報告の件

## 1、「募金活動と会員の拡大」について

- ① ユニセフの募金活動や普及活動をより多くの方々と協力して進めていくために、「ユニセフ会員」の拡大を目指してきましたが、3月末現在の会員数は235人（一般232、学生2、法人1）と、まだ目標の300人達成はできていません。

ユニセフの「会員」について、まだまだ理解されている人たちが少なく、マンスリー募金などに協力している人などには「自分は会員になっている」と思っている方も少なくありません。「会員」の制度や役割についてもっとお知らせして、積極的に会員加入のお勧めをしていくことが必要です。

- ② 「守りたい。子どもの命、アフリカの未来」をテーマに第30回ユニセフ ハンド・イン・ハンドが全国一斉に行われました。福島県ではこれまでの4市に加えいわき市も参加され、5会場で恒例の年末街頭募金に取り組みました。

12月7日に郡山市（岩瀬書店富久山店）といわき市（鹿島ショッピングセンター・エブリア）で、14日には福島市（福島駅東口）と会津若松市（COOP あいおい店）で、16日に白河市（福島県南生協天神町店）で行われました。各地の生協組合員や女子大生のボランティア、更に子どもたちも含め総勢93名の皆さんが募金を呼び掛け、2007年を上回るこれまでの最高額193,851円の募金が寄せられました。



- ③ 福島県支部の理事・評議員選出の各団体や小学校・中学校・短大・大学などの学校関係、様々な民間団体、個人の方を含め、総額16,735,359円の募金が県支部に寄せられました。中国四川省大地震やミャンマーサイクロン、ガザ人道支援などには福島県教育委員会より各学校にご案内をしていただき30小学校・16中学校・10高校でお取り組みをいただき、また大学・短大でも4校で取り組まれております。福島市国際交流協会では“結・ゆい・フェスタ2008”企画で参加団体によるポイント券利用高の20%をユニセフへ募金するなど、様々な募金協力の方法が工夫されています。

一般募金 4,618,917円

緊急募金 12,116,442円

（中国 8,338,686、ミャンマー3,620,562、ガザ 157,194） 合計 16,735,359円

<参考値> 全国から集まったユニセフ募金

総額(2008年度) 180億 9,450万円

ハンド・イン・ハンド募金 6,213万円

中国四川省大地震 3億 3,000万円

ミャンマーサイクロン 7億 8,679万円

エチオピア緊急支援 3億 4,128万円

ガザ地区人道支援 2,908万円



## 2、「広報活動と開発教育」について

- ① ユニセフ募金（一般募金、緊急募金）の受け入れについて地元新聞（福島民報・福島民友新聞）のご協力をいただき、広く県民の皆様にお知らせしてきました。このことにより募金に取り組んでいただける団体が増えていく要因になっています。

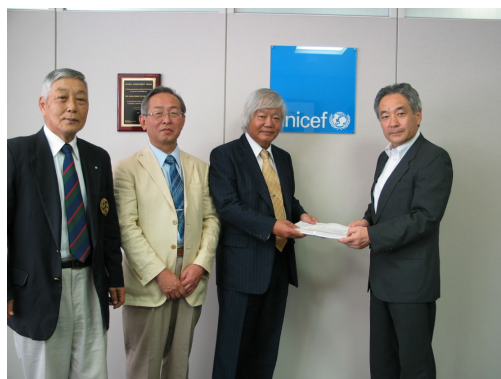
また、県支部のホームページでも募金受け入れを含めて県支部の活動について別紙「ホームページ掲載記事一覧表」のように掲載してきています。

- ② ユニセフ協会では「なくそう！子どもポルノ」キャンペーンを展開してきて、「児童買春・児童ポルノ禁止法」の早期改正を求める署名活動を進め、全国から集まった第2次分 93,802筆の署名を与野党幹部に1月13日に提出しました。昨年3月に提出した第1次分と合わせ 114,624筆となりました。

福島県支部においても昨年春に署名活動に取り組み、1,706筆の署名を7月29日にユニセフ協会・速水研専務理事に託しました。

この活動は、多方面から共感を得て、法律を改正していける見通しが出てきております。

別紙「子どもポルノ問題に関する緊急要望書」



- ③ 総合学習の依頼が、福島大学附属小学校と福島市立松川小学校からあり、対応してきました。

<福島大学附属小学校 6年生>2月17日  
4人の女子児童が福島県支部を訪れ、「ユニセフと地球のともだち」(CD)による学習と、県支部作成の「世界の子どもたちは、今？」(パワーポイント)により「ユニセフがめざすこと」「世界の子どもたちは、今？」「私たちにできること、どんなこと？」について学習しました。



<福島市立松川小学校 6年生>2月26日  
昨年に続き2回目の総合学習を松川小学校“のびのび広場”(大教室)で91人の児童対象に行いました。「世界の子どもたちは、今？」(パワーポイント)を中心に、「ネパールの学校での活動の紹介」、「対人地雷について」を加えて、実際の地雷模型や水ガメ・蚊帳など実物も使って授業を行いました。

授業に先立って、学校内で募ったユニセフ募金 17,866 円の贈呈を代表委員・大野想さんより受けました。



- ④ ユニセフの支援活動がどのように行われ、支援先で私たちの募金がどのように役立っているのかを現地を訪れて確認し、研修する「ネパール・スタディツアー」が昨年11月15日から23日にかけて行われ、事務局長が参加してきました。

「スタディツアー報告書」がまとめられ、報告会を実施中です。

12名のメンバー出発・・・→

(カトマンズ・カラーリビングホテル前)  
ネパールのフェクコープ（医療生協）が昨年6月に福島県の医療生協を訪問されたのを機に、福島県生協連との交流会が持たれ、県支部としてバックアップしてきました。



- ⑤ 他団体・実行委員会が主催する行事に次のように参加・協力等をしてきました。
- (1) 野口英世アフリカ賞受賞者記念講演会（5月30日、会津大学）  
ユニセフパネルの展示、カード・グッズの販売、ユニセフチラシの配布
  - (2) まなびピアピアふくしま 2008「第20回全国生涯学習フェスティバル」  
10月11日から15日まで県内9市町で行われ、ユニセフでは郡山市ビッグパレット会場に「すべての子どもに教育を」をテーマに5日間フル参加しました。  
「私も学校に行きたい」パネルを展示し、ユニセフチラシの配布・ユニセフ募金・カード・ギフト販売など、20人のボランティアによる協力で行いました。  
募金 5,693 円、カード販売 30,550 円
  - (3) ガールスカウト学習会（3月11日）  
ガールスカウト創設 90 周年イベントへの協力として、「エイズ・マラリア・ストローク」キャンペーン（仮称）を共催することとしていますが、これに向けて福島市内4カ団のガールスカウト役員を対象に学習会を行いました。  
エイズ・マラリアという病気についての理解を深め、メンバーに教えていけることを目的に行いました。
  - (4) 国際ソロプチミスト福島・講演会（3月28日）  
「途上国の女性と女兒の経済自立支援」と題してNPOかものはしプロジェクト代表・村田早耶香氏による講演会（福島市市民会館第2ホール）を名義後援しました。
- ⑥ 「ユニセフスタッフ研修会」7月30日（水）に県支部役員団体のスタッフを対象に県支部事務所で3名の参加で行いました。  
『ユニセフ活動の手引』（2008年版）により、「ユニセフ活動普及のために」「福島県支部について」「ユニセフスタッフの役割」「会員と募金の仕組み」「ユニセフ活動のツール」について研修しました。
- ⑦ 「ユニセフリーダー研修交流会」を11月26日（水）に生協のユニセフ担当者を対象に労金ビル5階大ホールで16人の参加で行いました。  
「どんな人がいるでしょう」のビンゴゲームの後、「貧困とは？…日本の貧困・世界の貧困」について菅田俊雄・福島県支部事務局長から解説があり、ワークショップ「貧困はどこから～貧困の悪循環を断ち切るためには」を行って、様々な視点からグループでの意見交換が行われ、「貧困」についての理解を深めました。



### 3、「ユニセフグッズ・グリーティングカードの普及事業」について

- ① ユニセフグッズ・カードを県支部事務所内に常設展示することにより、普及に努めてきました。②③を含め、218,170 円の販売実績となりました。
- ② “ユニセフのつどい・地球のステージ” (27,120) や “野口英世アフリカ賞受賞記念講演会” (31,540) “まなびピアふくしま 2008” (30,550) 等での出張販売をしてきました。  
総額 89,210 円
- ③ コープふくしま (35,590) や郡山医療生協 (19,800)、福島中央市民医療生協 (42,770) から各々の企画行事での委託販売の要望に応じてきました。総額 98,160 円

### 4、「ユニセフのつどい 2008 in ふくしま」について

福島県支部が発足して 5 周年となった昨年の「ユニセフのつどい」は、設立 5 周年記念として、「地球のステージ」(代表：桑山紀彦氏)による公演を 10 月 24 日(金)に福島県文化センターで行いました。約 430 人の参加者は、桑山さんから発せられるメッセージ、オリジナル曲の熱唱、すばらしい映像、それによって伝えられる紛争・貧困地域・飢餓地域におかれている子どもたちの厳しい現実に関心をもち、私たちユニセフによる支援が役割を果たしていることに想いを新たにしました。

“つどい”には学法福島高校の生徒さん 180 人も参加され、最後には同校の代表・奥脇杏奈さんから桑山紀彦さんに花束が贈られました。

『今回の「ステージ」を見て、自分の知らないところでこれだけ多くの命が亡くなっているということを知った。これを見てから、少しでも死んでいく子供を減らせるよう、自分もがんばりたいと思う。』このような感想が寄せられ、メッセージは十分に伝わったと思われます。入場整理券相当分の 186,000 円と会場募金 7,851 円は、ユニセフへの一般募金として送らせていただきました。



### 5、「写真展等による啓発活動」について

- ① “子どもとエイズ”世界キャンペーン  
12月5日(金)から25日(水)まで福島県立図書館のロビーを会場に「H I V / エイズの危機と子どもたち」写真展を行いました。  
写真家・後藤勝氏撮影の「アジアのエイズ写真展」、「H I V / エイズと闘う世界」と県支部作成のエイズ関連資料の展示により、来館者への啓発を図りました。



『私は、今回この写真展を新聞で拝見しました。そして今日足を運んでみようと思ったきっかけは、今上映されている「闇の子供たち」をみたからです。この映画ではH I Vのことについてもかかれています。私は、今看護師をしています。映画や写真展などからH I Vに対する知識の薄さに恥ずかしい思いでいっぱいになりました。もっともっと私を含めた多くの人がH I Vに関心を持ち、正しい知識を知ってもらう教育の場が大切だと思います。』  
このアンケートに見られるように、「啓発」がいかに大切か、改めて思い知らされます。写真展開催期間中の来場者はカウントできませんが、17,597 円のエイズ募金が寄せられました。

② “アグネス・チャン大使の中国大地震視察記録” 写真パネル展



昨年 5 月 12 日に発生した中国四川省の大地震では死者・行方不明 8 万 8 千人という甚大な被害がもたらされました。被災者への募金活動に県内から約 817 万円の善意が寄せられました。

アグネス・チャン大使が被災地を 6 月 26 日から 7 月 3 日にかけて視察して来ていますが、その記録が「写真パネル」としてできており、ホームページのフォトエッセイと合わせて、いわき市ら・ら・ミュウにおいて 3 月 2 日から 27 日まで写真パネル展を行いました。